

きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、
力強く生き抜く生徒の育成」

愛情の反対

約800年前、「言葉を一切教わらなかった赤ちゃんは、どんな言葉を話すだろうか？」という疑問を解決するために、生まれたばかりの赤ちゃん50人に対し、つぎのような実験をしたそうです。

「赤ちゃんにミルクを与える」
「赤ちゃんをお風呂に入れる」
「赤ちゃんの排泄の処理をする」
といった生きるための世話はする。
「赤ちゃんの目を見る」
「赤ちゃんに笑いかける」
「赤ちゃんに話しかける」
といったコミュニケーション（スキンシップ）を取ることは禁止する。

その結果はとても恐ろしいもので、50人の赤ちゃんは全て1歳の誕生日を迎えることなく死んでしまったのです。

子どもが育つためには、栄養だけでなく、大人からのスキンシップが必要不可欠だということです。

もちろん、現在ではこのような実験は行われることはありません。しかし、子どもを育てる上で、親からのスキンシップ、言い換えれば愛情が不足している場面はひょっとしたら起こっているかもしれません。

「愛情」の反対は「無関心」だと言われます。子どもを育てる時には、子どもに対して「強い関心」をもち、育てていきたいものです。そのことが、子どものたくましい健康な成長につながるのだと思います。



正しい言葉づかい

「正しい言葉づかいができていますか？」
こう問いかけられてどう感じられますか？
「正しい言葉づかい」とは、何でしょう。
「正しくない言葉づかい」というのがあるので
でしょうか？

言葉は生き物です。古典で学ぶ日本語の意味は現在の意味とは異なっていることが多いですね。ですから、若い子達が使う言葉を私たち年配のものが聞いて違和感があっても、使っている当人同士で意味が伝わっているのならば「正しくない」わけではないですよ。ひょっとすると100年後には、その使い方が正しいことになっているかもしれません。では、「正しい言葉づかい」とはどのようなものでしょう。それは、時と場に応じた言葉づかいです。

話をする相手や、場面に応じて言葉を使い分けることができることが、「正しい言葉づかい」です。「美味しい」事を友達同士で「やばいよね」といっている若い子が、年配の方に向かって話すときには、「美味しいですね」と話せることです。そうした使い分けがしっかりできるとすてきですよ。

西岳の子どもたちが、そうした使い分けができるように、私たち大人が手本になりましょう。

HP 閲覧をお願いします。

毎回ご紹介している本校HP、多くの方に閲覧していただいています。これからもどんどん情報を発信していきます。どうぞご覧ください。

